第６分科会

国際理解教育で広げる『夢』の地図 ～キャリア教育と SDGs へのアプローチ～

●担当：渡邊太（山形市立西小学校／FKG 米沢）、阿部眞理子/小笠原直子（認定 NPO 法人 IVY）
高橋照美（山形市立金井小学校）、舟山康貴（長井市立豊田小学校）、清水千絵（JICA 東北）、
三澤香織（JICA 山形デスク）

●分科会のねらい・目的：

・子どもたちが将来の夢をより具体的に描き、できることから行動を起こせるような、総合的な学習の時間の年間構想を考える。

・「国際理解教育」や「開発教育」の視点・テーマを通して、どうすれば子どもたちは、世界と自分、地域と自分を繋いで、より良い世界（持続可能な世界）を思い描けるようになるかを考え、参加者各自の授業実践に活かせるようにする。

●参加者：33 名

Ⅰ．分科会内容と成果・結果

活動内容	詳細
アイスブレーク 担当：舟山・高橋	① グループ分け（希望校種ごとに） ② ○○○といえば？ゲーム（山形に関係するテーマで） ③ ○○○といえば？トーク（ワークショップの中でも使う開発教育に関係するテーマで） アイスブレークも兼ねながら今回のワークショップのウォーミングアップ的に「貧困」や「人権」などのテーマについてお互いのイメージを共有することができた。
ワークショップ 担当：渡邊	「ドリームマップ」体験（個人） ・ワークシートを使用し、最初に「あなたの夢はなんですか？」という問いに対して、どんなことを連想するかを自由に書き出してもらい、次に４つの視点（「自己実現（物）」「自己実現（精神）」「他者貢献」「社会貢献」）を書き加え、夢をより具体的に書き出してもらった。 漠然とした「夢」よりも４つの視点で考えることで、夢が具体的になること、また、「夢」といったときに「他者貢献」「社会貢献」といった視点が抜けやすいことを体験してもらうことができた。
ワークショップの説明 担当：渡邊	「ドリームマップ」とは？と今日のワークショップの流れの説明 ・「ドリームマップ」という手法を使って子どもたちに「夢」を考えさせることで、子どもたちが抱きやすい「夢＝職業」というイメージだけでなく「職業＝夢を叶える手段」という捉え方を意識させることができるということ。「夢」とは自分がどんな世界・社会でどんな風に生きたいか考えることで、そこから、今、自分にできること、これから自分が頑張っていきたいことを考えることにつながっていくことを伝えた。 ・ドリームマップの作例（写真）を紹介 今日のワークショップの流れやゴールも説明し、活動の見通しを持ってもらうことができた。
ワークショップ 担当：渡邊	A さん（校種別の設定生徒）の夢を考える（４～５人グループ：校種ごと） ・校種ごとに設定した児童生徒の情報（将来就きたい職業、好きなこと）が書かれた人物カードから、その児童生徒が国際理解・開発教育の視点で視野を広げることで、ドリームマップの４つの視点（前述）でどんな夢（どんな社会や世界になってほしいか、そういう社会や世界を実現するために自分はどんなふうに役に立ちたいか）を持ってほしいかについて話し合い、付

グループファシリテーター： 舟山、高橋、小笠原、清水	箋に書き出してもらう（夢カード）。 ・国際理解や開発教育の視点を持ちやすいようにテーマカード（例：貧困、環境、SDGs など）を各グループに５枚ずつ配り、児童生徒の就きたい職業とカードのテーマから夢を考えるようにしてもらう（例えば、ファッションデザイナー×「ジェンダー」＝男女関係なく着られる服のデザインを考える　など）。 グループ分けを経験度別ではなく、希望校種で行なった。国際理解教育の実践経験が豊富な人や、普段から国際理解などに興味を持っている人がいるグループでは、多くの夢カード書き出すことができて、児童生徒の夢をより具体化することができていた。一方で、国際理解教育に関心はあるがまだ実践経験がない人や、テーマやワークショップに慣れていない人が集まったグループでは、なかなかアイディアを膨らませられない様子も見られた。それでも、多くのグループでは、想定したよりも多くの夢カードを書き出すことができていたので、分科会に意欲的に参加している姿勢が感じられた。
ワークショップ 担当：渡邊 グループファシリテーター： 舟山、高橋、小笠原、清水	A さんがグループで設定した夢を描けるような年間構想を考える（グループ） ・総合的な学習の時間３５時間をベースとして必要に応じて増減を可能とし、他教科との横断的な取り組みを可能として考えてもらう。 ・各グループに「外部人材カード」「ワークショップ（教材）カード」を配布し、そこから取り入れたい活動を選んで模造紙に並べたり、書き加えたりして年間構想を立てるようにする。 ・グループによって進め方に差はあったが、適宜グループファシリが入ってフォローしながら年間構想のイメージを作っていった。児童生徒の思考に沿って、どんな流れでどんな学習活動を入れていけば、夢を広げたり具体化したりできるかを相談しながら活動していたグループが多かった。 ・ワークショップ（教材）カード自体はイメージを持つためにとても有効だったが、種類が多かったことで、それを見て内容を把握するだけでも結構な時間がかかってしまい、構成を組み立てる作業に入るのが遅くなってしまった。その分もあって、活動の時間が延びてしまった。
発表 担当：渡邊	グループで考えた年間構想を発表（ワールドカフェ形式） ・５分間を３回でお互いのグループの児童生徒や年間構想について説明を聞く。 同じ校種であっても、年間構想の流れや内容が異なっていたため、参加者同士興味深く他グループの発表を聞いていた。
実践事例紹介 担当：渡邊	小学校での実践事例の紹介（年間の学習活動） ・渡邊が今年度取り組んでいる小学校第６学年での実践や子どもたちの反応などをスライドで紹介。 ・今回のワークで考えたような年間構想と SDGs（持続可能な開発目標）や新指導要領、キャリア教育との関連、「夢」の捉え方を「Dream」から「Vision」へ転換していくことの説明。
お茶会 担当：小笠原	アンケート記入、リソース紹介、感想交流 ・昨年度作成した地域人材（リソース）の資料を配布し、説明。 ワークショップや実践紹介の時間が延びてしまい、アンケート記入やリソース紹介の時間が充分に取ることができなかった。

２．使用した教材や参考資料

・一般社団法人ドリームマップ普及協会　https://dream-map.co.jp
・　認定 NPO 法人開発教育協会（DEAR）　http://www.dear.or.jp
・　特定非営利活動法人 ACE http://acejapan.org

・ 認定 NPO 法人 IVY http://ivyivy.org
・ 国連 UNHCR 協会　https://www.japanforunhcr.org

３．参加者アンケート

参加者のご所属などについて(N=33)

教職員（小・中・高・大学）	公務員	国際協力交流団体	民間企業	中学生	高校生	大学生	その他
12	1	0	3	0	12	0	5

参加者の年代について(N=33)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
13	5	3	6	5	1

参加者のこれまでのフォーラム参加回数について(N=33)

初めて	2回目	3回目	4回以上
16	9	2	6

参加者の分科会への満足度について(N=33)

大変満足	満足	普通	あまり満足できなかった	不満足
16	13	3	1	0

４．担当者所感

【ファシリテーター：渡邊太（山形市立西小学校／FKG 米沢)】

・今回のワークショップは、ねらいが「年間構想を考える」というスケールの大きなものだったので、どうすれば参加者がイメージを共有しながらグループワークができるかを、当日まで７回ミーティングを重ね分科会担当者全員でアイディアを出して流れを作っていった。話し合いの中から、児童生徒の設定をあらかじめ決めて提示すること、人物カードから夢カードを作って、ゴールを具体化させた上で年間構想を考えるようにすること、年間構想を組み立てやすくするために地域人材カードとワークショップ（教材）カードを作成し、分類や並べ替えなどしながら作業をできるようにすることなど多くの工夫が生まれた。結果、参加者が楽しみながら「夢」や「夢を具体化させるためにどんなこと（学習活動）が必要か」を考えるきっかけを作ることができた。アンケートからも、参加者がこの分科会を通じてたくさんの気づきを得ることができたことがうかがえた

・実践紹介を最後にしたことで、ワークショップだけでは消化不良だった部分（イメージが持ちきれなかった部分）を補足でき、分科会の中で考えた年間構想のイメージを具体化することに繋がったと思う。

・前年度に引き続き、教員だけでなく一般の方や高校生、大学生にも参加してもらえたことで、教員だけでは得られないような視点を共有する時間となった。特に高校生の中には自分たちのイメージを明確に持ってどんどん意見を出し、夢や年間構想を考えていく生徒もいて、大人にとっても良い刺激となっていた。教育についてだからといって、教員だけで話すのではなく、様々な立場の人と一緒に教育について語ることは教員にとって視野を広げる良い機会となるので、次年度以降も国際理解教育に興味を持つ様々な立場の方に、参加してもらえるような分科会にしていきたい。